

学術大会長挨拶

県立広島大学保健福祉学部長 堂本 時夫

広島保健福祉学術大会は、広島県立保健福祉大学主催でこれまで5回の大会を重ねてまいりました。第6回となります今年大会は、本年4月に発足した県立広島大学保健福祉学部主催として最初の節目となる大会であり、県立広島大学開学記念リレーシンポジウムの一環でもあります。本大会では、誰もが気にしながらもいつの間にかその危険性を抱えてしまう生活習慣病を考える機会を持ちたいということで、テーマを「生活習慣病予防」として開催いたします。

1989年にアメリカのNorman M Kaplanが“The Deadly Quartet : Upper-Body Obesity, Glucose Intolerance, Hypertriglyceridemia, and Hypertension”という論文を発表し、肥満、糖尿病、高脂血症、高血圧の4つの病態を併せ持つ場合には「死の4重奏」が奏でられているとして警告を発しました。この警告は十数年遅れて、残念ながら日本でも深刻な警告として受け止めなければならないことになっています。言葉を変えれば、生活習慣病の予防は今の日本の若年から老年にいたる幅広い年代での克服すべき課題となってきました。平成12年に国により「健康日本21」が策定され、広島県においても平成14年に「みんなで創る健康」をスローガンとした「健康広島21」を発表して10年間の目標設定を掲げ、県民・地域住民の健康づくりに力を注いでいます。これらの中でも生活習慣病の予防は最重点課題として挙げられています。このような背景を踏まえて、当保健福祉学部においても様々な領域において健康や生活習慣病を教育・研究課題としてとりあげ教育・研究・啓発活動を進めています。

この大会では、生活習慣病や老年病の予防に関する研究の第一人者であられる国立長寿医療センター疫学研究部長、下方浩史先生から特別講演を賜ります。膨大な研究データに基づいた生活習慣病予防の戦略を伺い、今我々が何を考えどう行動すべきかについて貴重な示唆をいただけるものと期待しております。また、後半のシンポジウムでは、保健福祉学部・石崎教授の司会により、辻下先生は健康を意識した日常の運動習慣について、佐々木先生は糖尿病の運動療法の成果について、市川先生は健康を支える食生活について、安武先生は保健行政の立場から、それぞれご専門の研究成果を踏まえたお話をしてくださいませ。それらを踏まえて最後に総合討論を持ちます。

限られた時間ではございますが、この大会が生活者の立場としては健康を保つための日常生活の見直しの機会となり、教育・研究・実践を進める立場からは生活習慣病予防の今後の方向を見定める機会となりますことを期待しております。